



保育の計画に対する基本的な理解



◆講義の流れ／講義＋ワーク実践

1. 「保育課程」から「全体的な計画」への変遷
2. 保育所保育指針における「全体的な計画」
3. 「全体的な計画」の中の指導計画

*work1～3

講義の前に、用語の整理について

幼稚園教育要領 (学校教育法)

H29年告示

教師は、**幼児**の
主体的活動が確保
・・・



保育所保育指針 (児童福祉法)

H29年告示

保育士は、**子ども**の
主体的活動が確保
・・・



幼保連携型認定 こども園教育・ 保育要領 (認定こども園法)

H29年告示

保育教諭は、**園児**の
主体的活動が確保
・・・



はじめに

ねらい

保育内容の基本となるさまざまな計画の役割を知る
日々の保育との関連性を確認する

内 容

1. 「保育課程」から「全体的な計画」への変遷
2. 保育所保育指針における「全体的な計画」
3. 「全体的な計画」の中の指導計画

方 法

講義＋演習(個人ワーク)

1. 「保育課程」から「全体的な計画」への変遷

- ・保育所保育指針はおおむね10年前後で見直し
保育現場の指針が改定・養成校の科目も改定

保育制度の歴史	主な内容
1947年(S22年)	3月／学校教育法で幼稚園 12月／児童福祉法で保育所位置づけ
1965年(S40年)	保育所保育指針(以下「保育指針」) 策定
1990年(H 2年)	保育指針 改定「通知」 保育内容の6領域か*1ら5領域へ
2000年(H12年)	保育指針 改定「通知」 H10.保育士・H15.国家資格化・H18.認定こども園
2008年(H19年)	保育指針 改定「告示」 『 保育課程を編成し、指導計画を作成 』
2018年(H29年)	保育指針 改定「告示」 『 全体的な計画を作成しなければならない 』

*16領域「健康」、「社会」、「自然」、「言語」、「音楽リズム」、「絵画制作」→5領域「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」

▶直近(2018)の保育所保育指針改定 要点は5つ

・乳児と1歳以上3歳未満児の記述充実

乳児保育の充実

・養護の徹底が強調された

・幼児教育機関としての役割を果たす

教育機関である

・災害への備え、健康安全の記述増

大震災の教訓

・職場の研修体制の強化(質の向上)

キャリアアップ研修修了で処遇改善加算

キャリアアップ

2018年(H30)4月～適用

2. 保育所保育指針における「全体的な計画」

2008と2018指針を比較

保育課程と全体的な計画の違いから考えてみよう

第4章 保育の計画及び評価

保育所は、第1章(総則)に示された保育の目標を達成するために、保育の基本となる「**保育課程**」を編成するとともに、これを具体化した「指導計画」を作成しなければならない。保育課程及び指導計画(以下「保育の計画」とう。)は、すべての子どもが入所している間、安定した生活を送り、充実した活動ができるように、柔軟で発展的なものとし、また一貫性のあるものとなるよう配慮することが重要である。

保育所は、保育の計画に基づいて保育し、保育の内容の評価及びこれに基づく改善に努め、保育の質の向上を図るとともに、その社会的責任を果たさなければならない。

2008



第1章(総則) 全体的な計画の作成

保育所は、保育の目標を達成するために、各保育所の保育の方針や目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、**保育の内容が組織的・計画的に構成され、保育所の生活の全体を通して総合的に展開されるよう全体的な計画を作成**しなければならない。全体的な計画は、子どもや家庭の状況、地域の実態、保育時間などを考慮し、子どもの育ちに関する長期的見通しをもって適切に作成されなければならない。**全体的な計画は、保育所保育の全体像を包括的に示すものとし、これに基づく指導計画、保健計画、食育計画等**を通じて、各保育所が創意工夫して保育できるよう、作成されなければならない。

2018

▶全体的な計画の作成

日本の保育の理念:子どもの最善の利益

保育所

全体的な計画

- ▶子どもの発達、家庭や地域の実態、保護者の意向把握
- ▶各保育所の理念や目標・方針等が職員間で共通理解
- ▶長期的見通しをもったねらい・内容の構成と省察、評価

指導計画・保健計画・食育計画等

育みたい資質能力
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
保育内容の五領域のねらい、内容
養護と教育の一体性
環境を通じた保育

Work1.

▶〇〇保育園の保育理念・保育目標を調べてみよう。

▶「全体的な計画」の作成

組織＝保育所

自分が所属する保育所の「全体的な計画」の理解

work1.

〇〇保育園の「理念」「保育目標」は何ですか？

あなたが実現できそうなことは何？

例：全体的な計画の保育目標に

「あいさつができる子」「元気な子」

→各年齢で、健康的な体づくりに特化した運動遊びが明記されていれば連動性有 ☺

→あいさつに関して、読み取れる内容が記載されていないと連動性無 ☹

3. 「全体的な計画」の中の指導計画

-保育指針・総則-

- ①「全体的な計画」に基づいた具体的保育の展開の内容
- ②子どもの生活や発達の見通しをもった長期指導計画
- ③より具体的な、子どもの日々の生活に即した短期指導計画

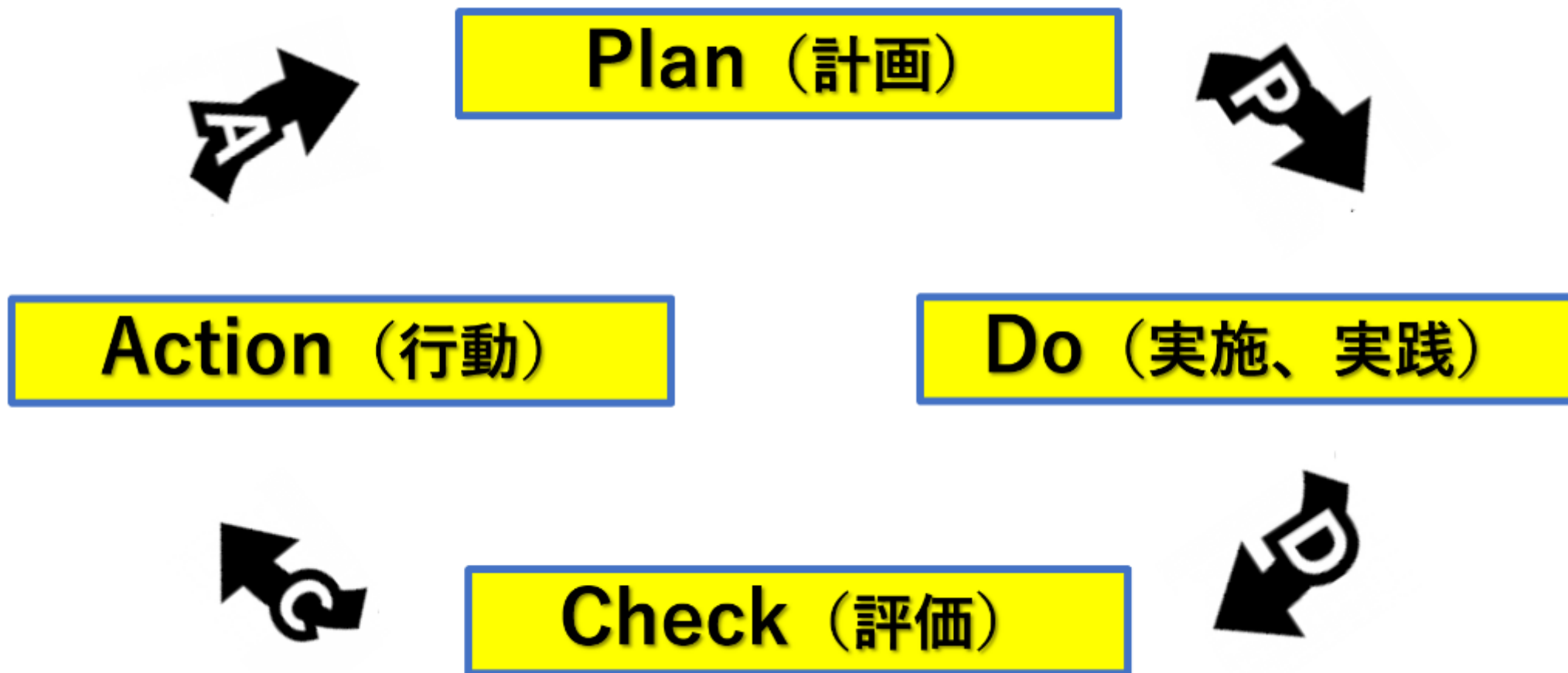
- 長期的な指導計画:年間、期間、月間指導計画
- 短期的な指導計画:週、日などの短期的指導計画
- 発達に応じて、個別の指導計画(3歳未満児)
- 年齢別クラスや異年齢グループの指導計画



発達各時期にふさわしい生活(遊びの環境)が展開されることで、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」、「育みたい資質・能力」が育まれる子どもたちの具体的な姿への見通し

▶振り返りを通じた質の確保・向上としてのPDCAサイクル

(米)哲学者Donald Alan Schönドナルド・ショーン／省察的实践家



▶保育者一人ひとりのPDCAサイクル

計画通りに進める、という意味ではない。見直すための土台作り

「全体的な計画」:理念、目標のもとに「指導計画」「保健計画」「食育計画」

理念、目標が達成されるような指導計画を実践しているか？

「生きる力(の三要素)」を育む指導計画を実践しているか？

「育ってほしい10の姿」を育む指導計画を実践しているか？

「養護と教育の一体性」の展開バランスを意識しているか？

子ども理解にたった援助をしているか？

▶子ども理解のためには、**自己理解**が不可欠

A保育園ICTシステムcoDMON^{*1}を利用した記録から

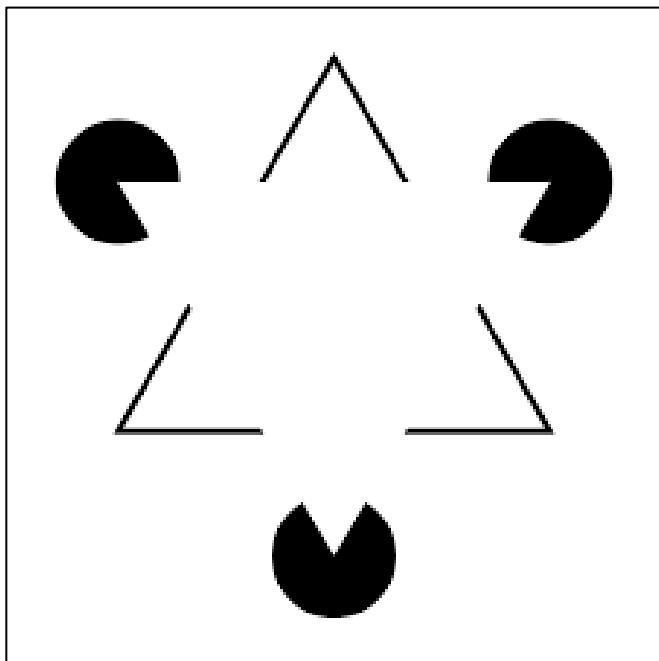
「最近、〇ちゃんは、お友だちと手をつなぎたがらず、一人で歩こうとします。昨日の散歩でも…略…食事の時も、保育者がスプーンを差し出すと、ぷいっと横を向いています。」

2歳児

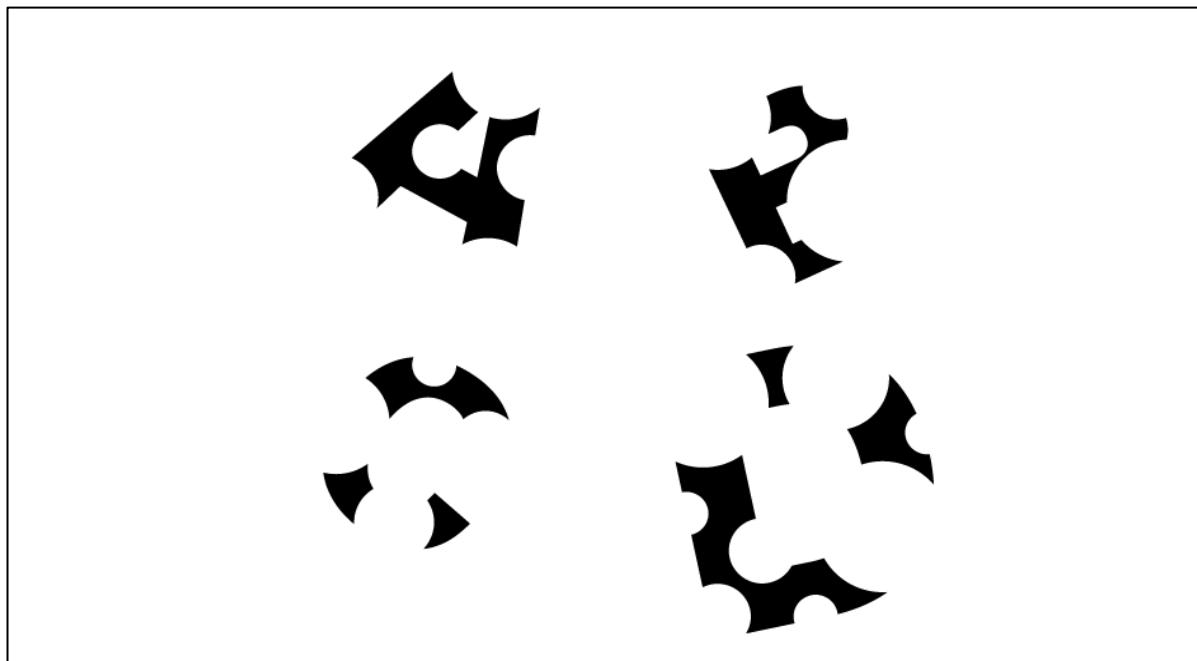
^{*1}coDMON:登・降園管理、計画作成管理、シフト管理、保護者アプリ等

•このような場合の読み手の心情を考えてみよう？





錯視図形 主観的輪郭（カニッツアの三角形）



だまし絵（隠された文字）

ものの見方・感じ方は、
与えられた情報ひとつでかわります
周囲にあるもの（環境）によってもかわります
私たちのものの見方、一方向だけになっていませんか？

work 2. ちょっと実験してみよう！ 

何も書いていない用紙を1枚、ご用意ください。

これから私が5つの事を伝えます。
用意した紙に、絵で表示してください。

隣や前後左右の人と、お互いの用紙を見ないようにお願いします。

- ・川が流れています
- ・川の向こうに山が見えます
- ・山の手前に大きな池があります
- ・池の中に、何やら 動く 生き物が います
- ・池の横に、花が 咲いています

Work2.

どんな絵になったか、周囲の人と、
できるだけ多くの人と見せ合いま
しょう。

1人が話す言葉を聞いて書いた絵は、皆さん
同じ絵になりましたか？

『受けとり方・感じ方』は皆同じではない！

先ほどのA保育園の事例)

手をつなぎたがらないのは、

例:ひとりで歩きたい　　ひとり歩きが楽しい(模倣　おとなみたい！)
という解釈もできるのでは？

※一度発信したものはなかなか削除しきれない→ぐるりと見直す習慣！

※リフレーミングを勉強してみましよう＝ソーシャルワーク技術！

▶「指導計画」の作成に求められるもの -再掲-

- ①「全体的な計画」に基づいた具体的保育の展開の内容
- ②子どもの生活や発達の見通しをもった長期指導計画
- ③より具体的な、子どもの日々の生活に即した短期指導計画

- 長期的な指導計画:年間、期間、月間指導計画
- 短期的な指導計画:週、日などの短期的指導計画
- 発達に応じて、個別の指導計画(3歳未満児)
- 年齢別クラスや異年齢グループの指導計画



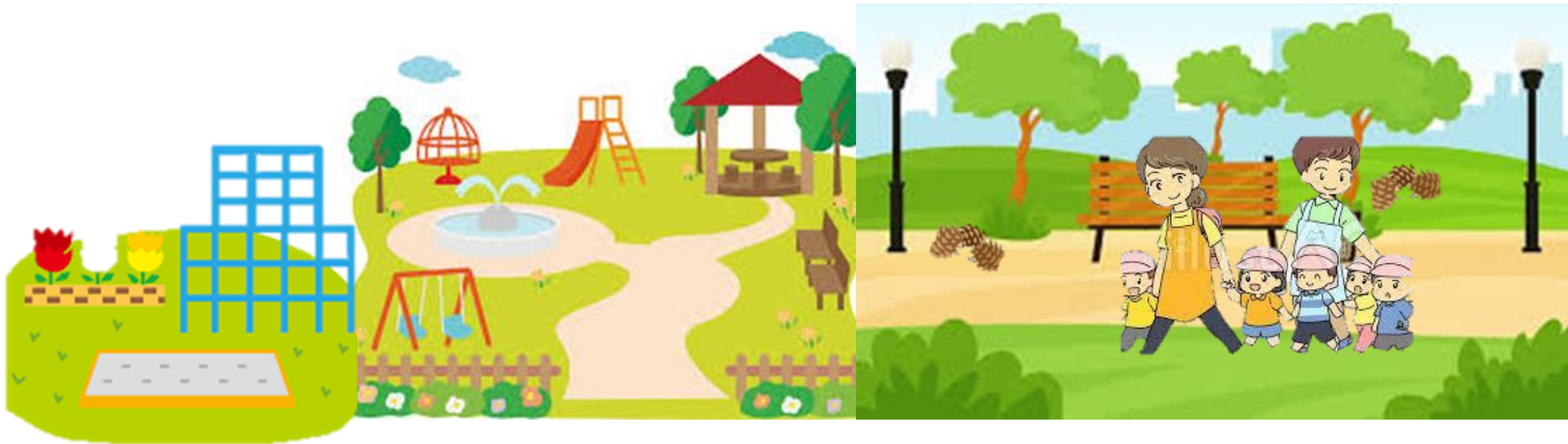
発達各時期にふさわしい生活(遊びの環境)が展開されることで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、「育みたい資質・能力」が育まれる子どもたちの具体的な姿への見通し



Work 3. 保育活動内容 「公園まで散歩し、自由遊び」

4歳児5人と保育士2人が、保育所から徒歩10分の公園へ外出。
散歩コースの道路は歩道と車道がある。公園入口は、信号機がある横断歩道を渡る。
イラストのような固定遊具(ブランコ、滑り台、ジャングルジム、回転ジャングルジム)、
芝生、池と噴水、築山、東屋、砂場、花壇、散策路、ベンチ、樹木、松笠

10の姿につながる要素を考えてみましょう。



Work3.

保育所保育指針を見ましょう。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿としてア.~コ.まで10の姿が描かれています。

4歳児5人と保育士2人が、保育所から徒歩10分の公園へ外出。
散歩コースの道路は歩道と車道がある。公園入口は、信号機がある横断歩道を渡る。
イラストのような固定遊具(ブランコ、滑り台、ジャングルジム、回転ジャングルジム)、
芝生、池と噴水、築山、東屋、砂場、花壇、散策路、ベンチ、樹木、松笠

上記の保育活動の中に、10の姿の、どのような要素が含まれているか？
考えてみましょう。

ノートに10の姿・活動の要素を書き入れ、周囲と意見交換しましょう。

就学の支援につなげるために。

	学びの形態	学びの媒体	学びの区切り
幼児期	興味・関心に基づく 自発的な遊び	自然・人・物などの 環境を通じた保育	1日～数日
満足するまで続ける活動から、約束した時間続ける活動へ			
児童期	教師主導の教科 別学習	教科書などの教材	45～50分
自分がやりたい活動から、決められた活動へ			

まとめ 「保育課程・指導計画の基本的な理解」

1. 変化を捉える：保育指針の改定から

現場に出てからが勉強

2. PDCAサイクルを意識する

長期・短期指導計画を見直す機会

3. 計画の通りに実践するのではない

ものの見方を考えてみる

4. 子どもの新鮮さに触れる幸せな職業

可能性のかたまりです